

地域の会



▲訓練後の記者会見



▲柏崎市役所内 災害対策本部



▲柏崎刈羽原子力防災センター

▼市民プラザ



原子力総合防災訓練視察 平成17年11月9・10日実施



▲避難所となった市民プラザ
(スクリーニングの様子)



▲大型ヘリコプターによる避難訓練 (荒浜運動場 野球場)



▲柏崎刈羽原子力防災センター

CONTENTS

第29回定例会 ヨウ素剤の服用について質疑応答	2
第30回定例会 原子力防災について活発な意見交換	3
発電所を巡る動き みんなの広場	4

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会(「地域の会」)

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①委員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会(毎月1回)
臨時会(必要に応じ開催)
※会は、原則すべて公開。

第29回定例会

ヨウ素剤の服用について質疑応答

第29回定例会の概要

開催日	平成17年11月2日(水)
場所	シーユース雷音(第1研修室)
出席者	19名(欠席5名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村、保安検査官事務所、地域担当官事務所、東京電力株
内容	●前回定例会以後の動き ●質問事項に関する回答について *新潟県:ヨウ素剤について ●原子力総合防災訓練について ●その他

前回定例会以後の動き

(発電所を巡る動向—報告)
保安院より原子力総合防災訓練の実施非常用炉心冷却系ストレーナー閉塞対策、定期安全管理審査評価結果について、資源工ネルギーより総合資源エネルギー調査会について、新潟県より月例状況確認、不適管理状況、原子力防災訓練事前訓練について、東京電力より不適合事象公表案件、2号機での点検装置車輪脱落、5号機原子炉隔離時冷却系の不具合、3号機点検停止の調査結果、使用済み燃料中間貯蔵施設立地の青森県並びにむつ市との協定締結について。

以前の定例会で質問のあったヨウ素剤の各戸配布や服用について、担当している新潟県福祉保健部医薬国保課から説明を受けると共に疑問に答えてもらいました。

【説明(新潟県)】

県の防災計画では国の原子力安全委員会で策定された「原子力施設等の防災対策について」をベースにヨウ素剤服用について定めている。その中で、
①誤った服用による副作用を避ける、
②ヨウ素剤を的確に管理する、③確実にかつ可及的速やかに服用するために、周辺住民等が退避し集合した場所等において、安定ヨウ素剤を予防的に服用



させる必要があること から各戸配布をしていないとの説明がありました。

【質疑・応答】

- Q 服用対象者が40歳未満の理由は。 A 40歳以上では放射線被ばくでの甲状腺ガンの発生確率が増加しないため。
- Q 各戸配布している自治体もあるというが、承知しているか。 A 他道府県・市町村では例がない。本県の旧小国町では、平成9年から希望者に対して購入の補助をしていた。
- Q ヨウ素剤の副作用と的確な管理とは。 A 副作用としては一般的には、ほてり感、発疹、頭痛、関節痛、胸やけ、吐き気、下痢など。服用禁止の方の場合、ショック状態に陥ることがある。
- Q 管理については、一般的な医薬品と同様に遮光の上、保管、使用期限切れ前の更新など。 A 服用の可否を判断する医師は避難所等に求められるのか。速やかに服用と

第30回定例会

原子力防災について 活発な意見交換

第30回定例会の概要

開催日	平成17年12月7日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(2F研修室)
出席者	21名(欠席3名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村、保安検査官事務所、地域担当官事務所、東京電力株
内容	●前回定例会以後の動き ●質問事項に関する回答について *東京電力:手動停止回数分析(掲載省略) ●原子力総合防災訓練視察・参加感想・意見交換 ●その他

前回定例会以後の動き

(発電所を巡る動向—報告)
保安院より原子力総合防災訓練の実施状況、女川原発における宮城県沖の地震時に取得されたデータの分析・評価及び耐震安全性評価、美浜原発3号機に対する立ち入り検査結果及び技術基準適合命令に基づく確認結果について、新潟県より月例状況確認、原子力防災訓練の実施、原子力発電所の安全管理に関する技術委員会の開催について、東京電力より1号機タービン建屋内での溢水、2号機の原子炉建屋出入り用二重扉の不具合、青森県むつ市にリサイクル燃料貯蔵株式会社設立について、それぞれ説明がありました。

Q 原子力防災は10条発令の時からが重要だと思うが、その時の対応は国ではなく地元自治体が多くなり、情報の伝達・広報をすべきではないか、市の考えはどうか。



A 10条発令とは「放射能の放出の可能性がある事象の発生」の時だが、法律では自治体が発令して行動することは出来ない。しかし、混乱を招かないよう、県や村と相談しながら住民に対して情報の伝達・広報をする。

Q スクリーニングや住民避難等の準備をあらかじめ整えておくのでは、訓練にならないのではないか。

A 国・県も同じと思うが、訓練の目的により準備に差が出たと思う。柏崎市では今回の訓練目的を来年度の原子力防災計画見直しのために課題を抽出することに主眼を置いた。従って、いろいろな課題が見えて来た。また、今回の訓練では放射性物質が放出される前に避難が完了している設定でありスクリー-

はどのくらいの時間を想定しているか。
A 避難所にはスクリーニング(放射性物質による汚染の有無の診断)で問診を行う医師が配置される。また、放射性ヨウ素を体内に吸入する前の服用ではほぼ完全に、吸入後8時間程度までなら40%近く取り込みを軽減できるが、24時間を経過してしまうとほとんど効果はなくなる。

Q 昆布等の海藻類を摂っているとヨウ素剤を服用しなくてもよいのか。
A 海藻類など食品からの摂取については、①必要量を摂取するのに大量に食べる必要があり、消化・吸収に時間がかかる上、吸収が不均一、②昆布の種類・産地により含まれるヨウ素量が一定でなく必要量を推測することが困難、③集団的かつ迅速に昆布などからヨウ素を摂取することは現実的に困難である、こと から適切ではない。

Q ヨウ素剤は薬局で買えないのか。
A 1錠5円くらいで購入可能。



Q 今度の原子力総合防災訓練でヨウ素剤の配布訓練はできないのか。
A 今回の訓練では放射性物質が放出される前に避難が完了しているという想定なので配布訓練は行わない。

Q ニングは必要はないが、訓練ということで実施したものです。
Q 訓練の「評価」をする人がいたようですが、評価結果はどうだったのか。
A (保安院) 結果はまだ出ていないが、今後の防災計画・訓練に反映させて行こうと考えている。
A (柏崎市) 市は独自に原子力防災訓練の検証のため、NPO(非営利団体)に評価を依頼した。結果はまだ出ていない。
Q 避難住民として訓練に参加したが、避難所まで最短経路で行かず高速道路を使って遠回りしたのはどうしてか。
A 経路は県が設定する。実際の避難の時は当然、道路状況等諸条件を検討した上で避難経路を決定する。今回は高速道路を使用する想定で実施したものでない。

Q 記者会見会場が防災センターではなく、隣の地域振興局だった理由はなにか。
A 防災センター内に記者会見会場まで作れなかったためだが、距離的に離れているなど問題があった。今後検討



意見 各戸配布できないと不安があるなら、その不安を解消するような歩みよりができないか。もう少しコミュニケーションをしてはどうか。
意見 前の職場では労働組合が独自にヨウ素剤を配布したのが、適切な管理ができてきているのか、適切に服用できるのか疑問である。
原子力総合防災訓練について保安院から説明があり質疑が行われました。
Q 広報車輦を使った訓練はあるか。
A それは無いが、防災行政無線をフルに活用する。
Q 要援護者の登録制について市ではどう考えているか。
A 個人情報保護の観点からできない部分があるが、自助、共助、公助という役割分担をきちんとしながら対策をとっていく必要がある。
Q 今回の訓練で中越大地震の教訓を生かした訓練はあるか。
A 交通障害や通信障害、停電というものも想定し、例えば、交通障害が起きたことを想定したヘリコプターによる人員搬送の訓練も行う。
意見 万一の時にパニックを防ぐにはタイムリーな広報しかない。マスコミ

視察後、参加委員で感想・意見交換

11月10日午後開催



- 今回の訓練は、過去に実施した訓練に比べたら濃度の濃い訓練だったと思うが、避難区域がごく一部に限定されていたりで、実際の時はどうなんだろうと、地域で真剣に考える必要があると感じた。
- 広報のあり方、情報伝達のあり方をもっと考えるべきだ。
- 私たち「地域の会」は見学者の立場でしかなかった。「地域の会」として発言できる立場であつたらと思った。
- 各関係機関の機能、連携は一定の評価はできたと思うが、時系列に内容を広報してくれれば良いが、「〇〇が起きた」とだけいきなり広報されるとパニックになるのでは。
- JCO事故以来、原子力防災に関して国がすることとなり問題があるのでは。防災は地方自治体が主体となること、一番のポイントだと思う。
- 訓練の中で市民からの問い合わせ電話が殺到する場面はなかった。実際の時は殺到するのではないが、対応はとれるのだろうか。
- 避難住民は避難放送が入ってから家を出たのではなく、決められた時間に集合場所へ向かった。災害弱者と言われる人たちの避難方法。退避できるコンクリート建屋は足りない等問題は多い。
- スクリーニングと問診は丁寧で良かったが、その分、時間がかかった。実際の時の避難住民の数はもっと多いと思うが、大変なことだと感じた。
- 広報車での事故情報の広報と、防災無線での避難広報が同時だった。自主防災組織がある町内は避難住民の点呼などできることは防災組織で担当し、行政と連携すべきと感じた。
- 市役所の災害対策本部の実際の対応を何度も見ているので、対応に関しては心配していない。実際の災害時の市役所の力はすごいものがある。しかし、原子力災害に対する共通認識の土台がないところが少し心配。
- FMピッカラは情報の元だと感じた。

意見 今回の訓練は避難対象範囲が2kmの想定だったが、4kmや、それ以上の場合もあるわけだし、災害弱者に対する対応も、防災では地域の力が重要と思うので、訓練へコミュニケーションの会長等が参加していたらと感じた。

をシャットアウトしないほしい。
意見 実際に国・自治体・住民の間の連絡や指示をわかりやすく図式化した物を住民に知らせてほしい。

キーワード解説

◎ヨウ素剤
のどにある甲状腺という器官では成長などに必要な甲状腺ホルモンをつくらせている。このホルモンはヨウ素を含む化合物で、甲状腺はこのホルモンをつくるために血液中のヨウ素を取り込む性質がある。しかし、血液中のヨウ素濃度が高くなると甲状腺への取り込みが抑制される。原発事故で万が一放射性ヨウ素が大気中に放出された場合、それを呼吸や飲食で体内に取り込む前に安定(放射性でない)ヨウ素剤を服用することで、放射性ヨウ素の甲状腺への取り込みを抑制することができる。

発電所を巡る主な動き(10月5日～12月6日)

- 10月6日 保安院 平成17年度原子力防災総合訓練の実施日程を発表
- 7日 定期検査中の5号機における主蒸気逃がし安全弁の表示ランプの電気回路の点検について公表
- 県 柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認
- ・157号機運転保守状況等の確認
- ・不適管理状況の概要(8、9月分)について
- 8日 定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所2号機におけるシユラウド点検装置の車軸の脱落及び回収について公表
- 1号機原子炉建屋でのけが人の発生について公表
- 11日 定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所5号機の発電開始について公表
- 12日 柏崎刈羽原子力発電所3号機の点検停止の調査結果について公表
- 13日 柏崎刈羽原子力発電所3号機の原子炉起動操作実績について公表
- 平成17年度原子力防災総合訓練事前訓練の実施
- 17日 柏崎刈羽原子力発電所3号機の発電開始について公表
- 18日 定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所5号機における原子炉隔離時冷却系の不具合について公表
- 19日 使用済燃料中間貯蔵施設に関する協定書の調印について公表
- 24日 定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所5号機における原子炉隔離時冷却系の不具合の復旧について公表
- 25日 保安院 非常用炉心冷却システム「スレーナー」及び格納容器再循環サンクスクリン閉塞事象に関する対応の指示
- 27日 保安院 原子力発電所における定期安全管理審査の評価結果の通知
- 保安院 原子力安全委員会に原子力施設に係る放射線管理等報告書の訂正を報告
- 11月9日 平成17年度原子力防災総合訓練の実施
- 11日 県 柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認
- ・157号機運転保守状況等の確認
- ・放射性廃棄物管理状況(平成17年度2、4半期)
- ・放射線業務従事者の線量管理状況(平成17年度2、4半期)
- ・使用済燃料保管状況(平成17年度2、4半期)
- ・不適管理状況の概要(9、10月分)について
- 14日 保安院 実用発電用原子炉に対する保安検査結果等(平成17年度2、4半期)の原子力安全委員会への報告
- 15日 保安院 総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会検査の在り方に関する検討会
- 21日 使用済燃料の中間貯蔵を目的とした新会社「リサイクル燃料貯蔵株式会社」の設立について公表
- 22日 定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所1号機における人身災害の発生について公表
- 保安院 東京電力㈱柏崎刈羽原子力発電所1号機の原子炉設置許可処分取り消し訴訟に東京高等裁判所で国側勝訴の判決
- 12月5日 新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会(第4回臨時会)を開催
- 29日 保安院 女川原子力発電所における宮城県沖の地震時に取得されたデータの分析・評価及び耐震安全性評価について、総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会耐震・構造設計小委員会を開催
- 6日 保安院 美浜原子力発電所3号機に対する立ち入り検査の実施
- 定期検査中1号機におけるタービン建屋内での溢水について公表
- 定期検査中2号機における原子炉建屋出入り用二重扉の不具合について公表

色は東京電力の動き
色は行政の動き

地域の会に寄せられた

みんなの広場



出会えてよかった…

柏崎市 増田 昌子さん

今から17年前に、埼玉から嫁いできました。柏崎に行くという話しをすると、親戚や友人は「原発怖くない?」と必ず聞かれました。「大丈夫だよ」と笑顔で答えていましたが、今同じことを聞かれたら「かなり怖いよ」と答えます。あの頃は、関心がなかったわけではないですが、どこかで絶対に大丈夫という考えがあったのだと思います。子どもが生まれ親になり、自分のことよりも子どもの未来を考えると、ようになってきた時、「原発」を意識し始めました。遅いですが、気付くことができ良かったと思っています。それからは、色々な方と話しをする機会も増えました。原発に関する話し合いをしている中で、生活経験や世代の違いなどから、お互いの価値観がぶつかり合う時もありますが、こうしたギャップが生じることはある意味で不可避の現象だと思っています。自分と異なる価値観が存在することを認めるのは、なかなか困難が多いことですが、話し合っ分り合えることもあります。互いが原発と共存しながら、日々の暮らしのあり方に幅を広げる好機とする努力を続けることは、今後の私の課題です。

「地域の会」は、原発の推進、批判的、中立というそれぞれの立場でバランスよく構成されている点が素晴らしい。強要することではなく、一人一人の考えを大切に話し合い、認め合うことから何かを見つけて行く会であって欲しいです。もっと沢山の方に会の存在を知ってもらうためにも「視点」は大切なPRとなると思います。若い世代には活字が多く、受け入れられ難いように感じています。幅広い世代に受け入れられる広報誌であって欲しいです。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。



省エネしてますか？

刈羽村 海津 里美さん

先日、新聞でこんな記事を目にしました。今のままのペースで人類が電気を使い続けたら、石油は41年後、天然ガスは67年後には尽きてしまうという説があるそうです。この説で行けば、私たちの子供の世代でエネルギー資源がなくなってしまう。

この状況を回避するために必要なのは原子力発電でしょうか？環境に配慮した太陽光や風力発電でしょうか？原子力発電にも核廃棄物の処理方法など課題は山積みのおよび、安全性に不安があることは否めません。太陽光や風力発電には大量の電力を作り出すには課題が多すぎます。そこで今必要なのは『省エネルギー』ではないでしょうか。紹介された記事の中で小学生も同じような答えを出していました。誰もが思いつく簡単に出来ること…でも、皆さんは省エネルギーに努めていますか？私はというと、あまり自信がありませんでした。ただ、この記事を書きかけに少しずつ無駄な電気の節約を始めてみました。普段つなぎっぱなしの家電製品のコンセントを抜く。電気をこまめに消す。とてもささいなことですが、1人ではなく、家族全員で、地域全体で、日本全体で、世界全体で広がって行けば相当の節約になるはず。記事で紹介されていた小学生達も台所で勉強して自分の部屋の電気をつけないようにしたり、誰もいない場所の電気を消して回ったりとの試みで、49人で448kW/H、電気代で約1万3000円分、CO2も159kgの減となったそうです。こういった試算で数字が見えれば成果が見え、目標も立ち、日々の節約の励みになるのではないのでしょうか。

今後、こういった教育が広まり一人一人が省エネに取り組む意識が高まればと思います。その結果、エネルギー資源の節約、環境保全につながり、そして原子力発電にも頼らないでいい日が来ることを願い今日も電気を消して回ります。

編集後記

国主催の原子力総合防災訓練が、さる11月9、10日の二日間に行われ、原子炉の主蒸気配管から冷却水が漏れ、緊急用の冷却水を送るポンプも次々と停止して、炉水が徐々に減少し、炉心損傷、放射能の放出の恐れがあるという想定で訓練が行われました。

地域の会では、委員が柏崎市役所、刈羽村役場、対策本部となるオフサイトセンター、地域の避難訓練、柏崎刈羽原発へと手分けして視察参加しました。目的は、住民の目線で原子力防災計画が本当に機能するかを点検しようというものでした。参加したメンバーが、2日目終了後原子力広報センターに集まり、訓練の感想や意見交換をしました。

また、12月2日の定例会でも原子力防災を主要テーマとして意見交換をいたしました。それらの議論については今回の「視点」で取り上げています。原発に賛成、反対の立場をこえて多くの市民、村民の皆さんから自分のこととして関心を持っていただいたかと思えます。今回の防災訓練を機会に、多くの方々からこの「視点」に対して、ご意見や投稿をいただけたら大変ありがたいことです。

(運営委員 S)

今後の「地域の会」定例会の開催案内

第32回定例会

日時:平成18年2月1日(水)午後6:30～
場所:柏崎市産業文化会館(大ホール)
※県防災担当・柏崎市長・刈羽村長及び東京電力発電所長の出席予定

第33回定例会

日時:平成18年3月1日(水)午後6:30～
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

会は公開で行われていますので、お気軽にお越しください。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。

ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>